

臼杵石仏の九州年号について

— 正和四年が九州年号であると、どのように確かめたか —

久喜市 角田 彰男
瀬戸市 林 伸禧

本書出版（2009年）から九州年号発見（2018年）まで

これまで炭焼長者の金鉾が発見されないため学者からは、これは研究の対象にならず伝説にすぎないとされ、臼杵石仏は平安末～鎌倉期の造立とされていた。しかし、私は古田武彦著「古代史の十字路」からヒントを得て、更に生前の古田先生から御指導・助言を頂き2009年歴史推理小説「炭焼長者 黄金の謎」-別府温泉の意外な前史を解く-（原書房）を執筆した。更に出版に当たり先生より解説文と御推薦を賜り、史上初めて長者の金鉾は別府金山であり、長者伝説は実話であるとして本書を世に問うことができた。

経緯

昨2018年、林伸禧の調査により臼杵小鑑の情報（臼杵石仏の正和四年は九州年号である。鎌倉の年号ではない。）がわかった。

鶴峰戊申著「臼杵小鑑」（1818年頃の著作）からの文章抜粋

満月寺は炭焼長者の建立であり…。臼杵石仏の大日如来を中心とした十三仏の石像に**正和四年 卯月五日**とあるのは偽年号（九州年号）の正和四年（西暦529年）であり、花園院（鎌倉期の天皇）の正和年号ではない。…この九州年号は、海東諸国記や伊与温泉銘にもある。

参考・十三仏=臼杵石仏の古園石仏群 ・伊与温泉銘=道後温泉碑

- ・偽年号=九州年号を現行年号に比較して述べられている単語。
- ・海東諸国記=李氏朝鮮の公式な隣国の解説・歴史書（日本、琉球）1471年刊
- ・鶴峰戊申=国学者 臼杵生れ1806～1854年 彼の著書「襲国偽僭考」には古写本「九州年号」から転記している。（括弧内は著者の補足、以下同様）

角田は、この報を受け、その裏付けを取ろうと県立図書館で調べた。すると、そこで、大雄閣 小野玄妙著「大乘仏教芸術史の研究」（S2年）の424頁に次の文を発見した。

…満月寺の草創については…相当に古い時代であることは石仏そのものの示す所によって明確である。…又、つい数十年前（明治維新前後？）まで、かの（臼杵石仏の）**大山十三仏の座す龕の付近の崖壁に正和四年 卯月五日**等の文字が残っていたという…。

こうして臼杵石仏には、正和四年卯月五日の年号が有るとした江戸後期の鶴峰戊申著「臼杵小鑑」の文が大正期に現地を調査した文部省国宝調査委員 小野玄妙の文章で裏付けられた。これは小野先生が1921年（大正10年）頃現地に入って臼杵石仏を調査した際、近所の古老が集まり、そこで集められた証言から得られたものと考えられる。なぜなら炭焼長者の代々の御子孫、草刈氏（現、第81代）は、古代から戦後辺りまで臼杵石仏近くに代々屋敷を構え、村人を雇って家業の炭焼業（生産・販売）を生業としていたから。当時、石仏の龕付近の崖壁にあった年号をよく知る村の古老が集まり調査に協力したと考えられ

る。この文により臼杵石仏（龕付近の崖壁）に正和四年の年号が有ったという鶴峰の文は確かなものと言える。但し、これには年干支がないので、この年号が九州年号であるという裏付けが必要である。ここで参考になるのは古賀達也氏の洛中洛外日記 第1822話 ‘19/01/12 臼杵石仏の「九州年号」の検証(5)である。その関連部分を引用する。

…そのことを（九州年号であることを）学問的に証明するためには「正和四年卯月五日」と刻銘された石仏が鎌倉時代のものではなく、6世紀まで遡る石像であることを証明しなければなりません。しかし、現在では刻銘そのものが失われているようですので、どの石像に刻されていたのかもわかりません。そうすると、せめて満月寺近辺に現存する石仏に6世紀まで遡る様式を持つものがあるのかを調査する必要があります。…（正和4年の年号は個々の仏像に書かれていたのではなく古園石仏＝大日如来を中心とする13仏のある龕近くの崖壁に代表して彫られていたことが小野先生の記述から読み取れると思う）

どのようにして九州年号の裏付けを取るか

これは正和4年が、鎌倉期の年号か、否かを調べれば良い。つまり、日本の正和年号は、鎌倉の年号と、それよりかなり古い九州年号の2つしかないからである。

正和4年（西暦1315年）…鎌倉時代 干支 乙卯

正和4年（西暦529年）…九州王朝時代 干支 己酉

この判断の為には、臼杵石仏は、50体余りの石仏群であるから、その石仏の造像形式・尊像配列等を他と比較して新旧を判断すれば良い。こうして空海などの大師等所伝（九世紀初頃）の前か？ 後か？が分かれば判断できるが中々難しい。小野先生が例に挙げている判り易い方法は次である。

| 仏像 | 前 | 後 |
|------|----------|----------|
| 薬師如来 | 左手に薬壺がない | 左手に薬壺を持つ |

その結果は大正期に現地を詳しく調査された小野先生の論文にある。それには「…大分の石仏の多数は密教信仰により造顕されているが、尊像配列の方法や形像そのものが、殆ど弘法大師等入唐八家請来の諸尊像と一致しない」と結論されている。つまり大分の大日如来など彫られた多数の古い石仏は空海以前の古い時代のものと判定できる。これは大分県の古代に（旧）密教が伝わっていた事を示している。こうして臼杵石仏の正和四年は鎌倉の正和年号（1315年）でなく、確かに九州年号である。よって二中歴に照らしても正和四年は西暦529年を示す九州年号である。

今後の課題

以上のことから江戸後期以前から明治初期前後まで臼杵石仏の龕付近の崖壁に「正和4年 卯月五日」という九州年号が有った事が明らかになった。この九州年号は惜しくも、幕末・明治初期の、おそらく廃仏毀釈により、失われて現存していない。この九州年号が、もし残っていれば金石文の九州年号として非常に貴重な九州王朝存在の大切な証となっていたはずである。ここで再度、臼杵の現地に目を戻すと、臼杵石仏近くの満月寺境内にもう一つの同字年号が残っていることに気づく。それは次の様である。

画像2 満月寺五重塔 (右拡大写真)



「満月寺五重塔」銘文「正和四年乙卯 卯月五日」

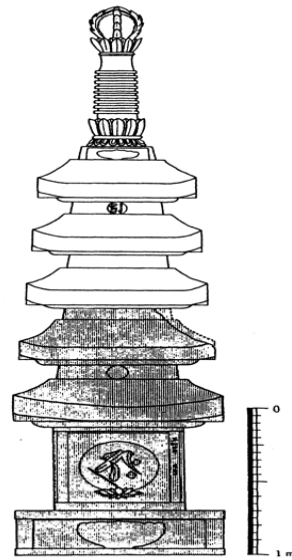
『白杵史談』86号、平成7年2月、31頁

画像3 太田重澄「寺社考」1741年 画像1 (菊田徹：白杵磨崖仏の周辺石造物)

満月寺 七所 深田村

從古來天台宗大文氏祈願所也。義鎮形家滯休之時滅亡乎否大阿仁王
大文氏祈願瘡以米諸人為瘡瘡守護神堂前田古蓮池也破却時投佛
貝等有六坊遺跡左記 悟樂坊本尊觀音 南坊大日彫石今存
東坊 岡坊 川口坊本尊藥師引同原福良 同吉塔代住僧像圓石存
妙見菩薩石像 諸人祈願瘡 石塔銘 正和四年 施主阿闍梨隆尊敬白
卯月五日 作圖秀

(寛保元年)



第6図 満月寺五重塔復元実測図

③ 満月寺五重塔 一基(第六図)

満月寺境内の東側、丁度、国指定特別史跡観音石仏の五層
ばかり南、字観音九六〇に位置している。基礎と初層以外は
昭和五十一年に復原されたものである。しかし、初層南面に
正和四年(三二五)の刻銘をもつ貴重な塔である。昭和五
十年に市の有形文化財の指定を受けている。この塔の塔身四

面には、全剛界の四仏である阿闍梨(東)、宝生如来(南)、
無量寿如来(西)、不空成就如来(北)の梵字が基彫彫され
ている。また、東面と南面の二箇所左右にはそれぞれおよ
うな銘文も刻まれている。

(東面)
(東) 右為先師聖壽尊全及隆尊之先孝先妣
(西) 滅罪證覺利益衆生所奉造立供養如件
(南面)
(東) 正和四年 卯月五日願王阿闍梨隆尊敬白
(西) 合力作者阿闍梨圓秀

現地に今も残る金石文の九州年号か？

白杵石仏のある満月寺の境内東に五重塔1基が現存している。画像1の白杵史談86号31頁には五重塔の南面東の正和四年が通説によって1315年の鎌倉年号として記載さ

れている。しかし干支はない。ところが画像2の現在の写真右の五重塔（拡大）には年と卯の間に鎌倉年号を示す干支の乙卯が何故か横書きで彫られている。画像3を見ると江戸期の1741年の太田重澄著「寺社考」には、正和四年 卯月五日で年干支は無かった。しかし、明治元年頃の洪水で近くの河岸が決壊した際に、この多層等を壊して河岸を補強した。それから百年余り後の1971年から1972年に発掘して破片等を集め原形復元に努めた。やがて1976年に五重塔として復元完成となる。この時、年干支は確認できず。只1字分の空白があった。翌1977年、臼杵市有形文化財に指定。その後15年を経た1992年「臼杵市史」（下）が発刊された。しかし、これは何故か、突然、年干支の乙卯が記載された史書となっている。やがて河合様によりHPに公開された。そして2019年菊田氏（臼杵市郷土史家）により五重塔に横に乙卯が刻まれているのが確認された。

| 和歴 | 西暦 | 記 事 |
|----------------|----------------|--|
| 寛保元年 | 1741年 | 太田重澄は『寺社考』で「右塔銘 <small>正和四年 卯月五日</small> 施主阿闍梨隆存敬白作圓秀」と記述 |
| 明治元年 | 1868年 | 満月寺境内には2基の多層塔が存在していた。 |
| 明治初頃 | ? | 洪水により河岸が崩潰したので、この多層塔を壊して河岸を補強した。 |
| 昭和46年 昭和47年 | 1971年 1972年 | 昭和46年の河川改修及び昭和47年の本原石仏周辺発掘調査により、多層塔の屋根の小破片が多数出土したので、これを用いて、つとめて造立当時の原形に復元した。 |
| 昭和51年 | 1976年 | 4月5日五重塔として復元完成。だが、刻銘の一部が判読不能なので正和四年□卯月五日(1字分空白)とした。 |
| 昭和52年 | 1977年 | 4月8日 満月寺五重塔として臼杵市の有形文化財に指定される。 (現地 立て札より確認) |
| 平成4年 | 1992年 | 『臼杵市史』下を発刊。それには「正和四年乙卯卯月五日……」と年干支が記載されている。 |
| 平成7年 | 1995年 | 臼杵史談 86号が発行されたが、五重塔には「正和四年 卯月五日……」と年月日が記述されているが年干支は無い。これは昭和51年当時の状況で記述したためという。 |
| 平成20年 | 2008年 | 河合哲雄氏がHP石仏と石塔に臼杵市「満月寺五重塔」の写真をアップされる。それには「正和四年 <small>乙 卯</small> 卯月五日……」と年干支が横から彫られているのがわかる。 |

ここで判る事は、初め文献で干支のなかった満月寺の多層塔が明治元年頃に解体されて堤防の補強に使われてしまったが、その百年余りに発掘され五重塔として復元された。しかし。復元後16～32年程経た辺りで、五重塔に年干支が横書きで刻まれていたというので

ある。不審である。尚、臼杵市有形文化財指定後の1978年に入手できた唯一の五重塔の全景写真では影があり干支の有無は確認できない。

このような出来事をどのように考えたら宜しいとお考えでしょうか。今回セミナー参加の会員、研究者の皆さん、是非、お考えをお寄せください。また、持ち帰って各研究会や例会等で研究を深められての御意見や写真情報などありましたらお寄せください。

今回のセミナーでは、下記まで、ご意見をお寄せください。(記入用紙あります)

多元の会 角田彰男
古田史学の会・東海 林 伸禧

| 参考図書 | 著者 | 出版・発行 |
|--------------|-------|--------------|
| 「大乘仏教芸術史の研究」 | 小野玄妙 | 金尾文淵堂 or 大雄閣 |
| 「臼杵小鑑」 | 鶴峰戊申 | 国会図書館蔵 |
| 「臼杵史談」第86号 | 仲嶺真信他 | 臼杵史談会編 |
| 「臼杵石仏」 | 賀川光夫編 | 吉川弘文館 |
| 「古代史の十字路」 | 古田武彦 | 東洋書林 |
| 「東海の古代」225号 | 林 伸禧他 | 古田史学・東海 |
| 「炭焼長者 黄金の謎」 | 角田彰男 | 原書房 |

(参考)

国宝臼杵石仏(大分県臼杵市の磨崖仏61体)は、その規模と数量において、また彫刻の質の高さにおいて、わが国を代表する石仏群であり、まさしく国宝に相応しいと言える。その古園石仏龕の大日如来座像は智拳印を結んでおり、これは密教信仰で彫られたことは確かである。つまり空海以前の更に奈良時代前の古代に九州大分県に古い密教が伝来していた。ここで密教発祥から空海までの真言八祖を列記する。(①～⑧は伝次の世代数)
インド①龍猛(AD2) ② 龍智(不明) ③ 金剛智(AD7～8) ④ 不空(AD8) ⑤善無畏(AD7～8)
中国 ⑥ 一行(AD8) ⑦ 恵果(AD9)
日本 ⑧空海(AD9) …以後、京都を初め全国に広まる。(例 AD2→西暦2世紀)

参考 ネット「真言八祖」よりウイキペディアで調査の上作成

この中で①龍猛～③金剛智(誕生頃)までは九州王朝期に当たる。この頃に直接か、間接かは不明だがインドから密教が倭国に伝来していた事は確実であり、臼杵石仏等がその証拠である。後世に成立した大和朝廷は、これを雑密と呼んで区別し無視していた観がある。

参考「空海の風景」司馬遼太郎著より

ここで視野を広げると九州では臼杵以外に国東半島にも密教的な不動や仁王等が多数存在する。更に佐賀県相知町(立石)の崖壁に作者・製作年不明の仁王や薬師如来(「左手は膝上に安き、右手は挙げて施無畏の相に住す」とあり、薬壺記載無し)等が彫られているという。こうして大和朝廷がその実態を軽視・無視した旧密教仏分布を見ると古代九州王朝の存在が見えてくるのではないのでしょうか。参考「大乘仏教の芸術史の研究 448頁」より